

2020年度 発達保障学校

~~~~~  
***SYLLABUS***  
~~~~~

(講義計画)

人間発達研究所

<p>コース名 「入門の入門」コース</p>	<p>2020年度回数 1回</p>	<p>担当者 安藤史郎・武居誠・松永朋子</p>
<p>授業の内容</p> <p>入職後3年くらいまでの方が対象のコースです。乳幼児期から成人期を対象とする方まで、グループ分けもしながら学び合います。今年は1回だけの、また、オンラインでの開催です。目の前で起こっている問題や悩みを発達的に読み解くとどうなるのか。そのような見方・考え方の入り口に立てることをめざします。ミニ講義を通して、発達や発達保障について基本的なことを学び、実践の楽しさや難しさについて、みんなで話し合います。</p>		
<p>授業の流れ</p> <p>12月13日（日） 9:00～12:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師自己紹介＆参加者自己紹介 ・ミニ講義①「発達の理解を実践に活かすって？ ——事例を通して、みんなで学び合おう——」 ・グループトーク① ミニ講義①の「わからないこと」「印象に残ったところ」のわかちあい。 ・ミニ講義②「発達を学ぶって？」 ・グループトーク② ミニ講義②の「わからないこと」「印象に残ったところ」のわかちあい。 ・まとめ 仕事をしていて「楽しいこと」「難しいこと」のわかちあい。 「私たちの仕事と社会のつながりについて」講師からの発言と意見交流。 		
<p>その他</p> <p>教育実践については、教員の参加が少なく、グループトークのテーマになりにくい状況です。</p> <p>マイクとカメラを使って、お互いに顔を見ながら話し合いをおこなえたらと思いますが、難しいようでしたら、チャットでご発言ください。</p>		

<p>コース名 発達入門コース</p>	<p>2020年度回数 10回</p>	<p>担当者 高田智行</p>
<p>授業の内容</p> <p>「何のために発達を学ぶのか」からはじまって、0歳から就学前までの発達の道筋を追いながら発達の基本を学ぶコースです。発達は「～歳の発達の特徴は…」というように定点で捉えるのではなく、つながりの中で捉えることでみえてくることがあります。そのみえてきたことをどう実践にいかすのか、乳幼児健診や障害児保育などの実践事例も交えて講義をすすめます。</p>		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回 9月 27日（日） pm</p> <p>講義1：発達といいますが…</p> <p>保育や療育等の実践現場では、「発達」ということばを当たり前のようには使うことができますが、生活の中で「発達」ということばを使うことあまりありません。あらためて「発達」とはどのようなことなのかについて考えてみます。</p> <p>講義2：発達のしくみ</p> <p>「発達のしくみ」や「発達をどう捉えるか」について、田中等による「可逆操作の高次化における階層・段階理論」をもとに学びます。</p> <p>第2回 10月 18日（日） pm</p> <p>講義3：乳児の世界から幼児の世界へ</p> <p>乳児期から幼児期への「生後第2の新しい発達の原動力の誕生」から1歳半の発達の節を越え「1次元可逆操作」獲得までの発達について学びます</p> <p>実践1：乳幼児健診の実践を通して</p> <p>講義3の内容について、乳幼児健診における実践を例に学びを深めます。</p> <p>第3回 11月 29日（日） pm</p> <p>講義4：対の世界をゆたかに開く</p> <p>1歳半の発達の節を越え獲得した「1次元可逆操作」の力がどのように「対の世界（2次元形成の世界）」を開いていくのかについて学びます。</p> <p>実践2：子育て支援の実践を通して</p> <p>講義4の内容を踏まえ、「対の世界をゆたかに開く」とはどのような事なのかを、子育て支援の実践を例に考えます。</p> <p>第4回 12月 20日（日） pm</p> <p>講義5：揺れながら自分をつくる</p> <p>対の世界（2次元形成）がゆたかに開いていくことが、4歳の発達の節を越え「2次元可逆操作」を獲得していくこととどのように関係しているのかについて学びます。</p> <p>実践3：保育の実践を通して</p> <p>講義5の内容について、保育所巡回相談における実践を例に学びを深めます。</p> <p>第5回 1月 31日（日） pm</p> <p>講義6：幼児の世界から学童の世界へ</p> <p>就学前のまとめの時期でもある「生後第3の新しい発達の原動力の誕生」について、9・10歳の発達の節を越えることを視野に入れながら学びます。</p> <p>講義7：これからの実践に向けて</p> <p>実践において、「発達」を学ぶことがどう生きるのか、そしてどう活かすのかについて考えます。</p>		

<p>コース名 実践にいきる記録の書き方</p>	<p>2020年度回数 5回</p>	<p>担当者 坂本彩</p> <p>ゲスト講師 竹澤清</p>
<p>授業内容・テーマ</p> <p>実践記録を書くとてもいいことがあります。</p> <p>書くことが苦手と感じる人もいるかもしれません。伝えたいことを伝える言葉がなかなか出てこない人もいるかもしれません。そんな人たちが一緒に学んで、実践記録を書き、「いいこと」を味わってみませんか？</p> <p>実践記録は「客観的事実を正確に書き写した」ものではありません。そこには目の前にいる人の多様な姿や思い、そして、実践に込められた私たちの思いが綴られています。実践記録を書くことによって、私たちは相手の思いを発見することができると同時に、「自分たちがなぜこの実践に取り組んだのか」という自分たちの意図を深く自覚することになります。それは、次なる実践の方向性を定めることにも繋がる重要なプロセスなのです。</p> <p>とはいえ、実践記録を書こうとするとき、そもそもどんな実践について書けばよいのか題材選びから悩む人も多いのではないのでしょうか。このコースでは、VTRを見て記録をとってみるワークなども取り入れながら、さまざまな視点を学び合うことも取り入れます。大切なことは、自分たちの実践に実践者なりの意味づけがなされ、そのような姿を導いた実践自体への面白さや価値に気づくことにあります。そして、それをどのように表現するのか、目にした現象を実践者なりの“言葉”で語る力が必要になります。</p> <p>実践記録を書く上で必要となる「見方、語り方、意味づけ方」を自分なりに見つけていくとともに、それをどのように実践記録としてまとめていけば良いのか。実践の多様な見方・考え方を発見したい人、表現する自分なりの“言葉”を見つけない人、自分の実践の中から方向性を選んで文章化したい人、一緒に学びましょう。</p>		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>1日目(9/6)：実践記録を書こうとしてみる</p> <p>映像を通して場面の切り取り方や子どもや利用者の姿の意味づけ方を考える</p> <p>2日目(10/18)：エピソード実践記録を書いてみる</p> <p>書いてみたエピソード記録を共有し、いきいきした姿が思い浮かぶか体験する。 (伝わっているかな?)</p> <p>3日目(11/29)：</p> <p>竹澤先生の講義 書き方のツボを学ぶ →実践記録を書いてみる</p> <p>4コマ目：個別添削</p> <p>5日目(2/28)：みんなで共有</p> <p>実践記録を読み合う</p> <p>記述の仕方、表現方法について感想を出し合う</p> <p>実践記録や実践の面白さについて語り合う</p>		

<p>コース名 実践を学び合うコース</p>	<p>2020年度回数 5回</p>	<p>担当者 田村和宏</p>
<p>授業の内容</p> <p>最近の障害児の入所施設の入所理由は虐待や暴力からの擁護・保護が多いそうです。目の前の障害のある子どもたちの姿には、その背景にある家族との生活の時間や関わりなどが、その子の日常の姿にも大きく影響をしてきて、その子の姿を捉えていくことが複雑化・困難化してきている、でもそこを共有することなしに明日が拓かない」というのが実感ではないでしょうか。</p> <p>また、8050とその先の問題。知的障害者の実践現場では高齢化が進み、両親と共に生活してきたけれども、親御さんが亡くなってしまって新しい生活スタイルを模索しなければならなくなってきて、次どうしていくことが必要なのか悩んでいるという人も多く見られています。</p> <p>それぞれの実践現場では、それぞれなりに曲がり角にさしかかかっていて、どうしても問題点ばかりが議論されて、息がつまりそうだという声もまたよく耳にします。</p> <p>そういうときは、実践の話、目の前の彼女たちのいいところや、得意なところや、彼らしいところなどを、いつ、どこで、どういうときに、どんなタイミングでなどたくさんしましょう。レポートそのものはうまく書けていなくても、自分の実践がどうなのかについて、自分のことばで記し、語り、それをみんなと意見交流し、いろんな多様な視点や考え方に触れて元気をもらいましょう。</p> <p>このコースの前進の発達保障実践論コースでは、これまで若手の実践者であったり、ベテランの管理者であったり、教員であったり、保育士であったり支援員であったり、学童保育の指導員であったりと多様な参加者で構成されることが続いてきています。それぞれこのコースに期待するところも異なりますから、やや総花的な話になったりはしますが、その人の将来の姿や家庭での暮らしぶりが連想できたりして、支援の方向性が深まったりしてくることもあります。そうやって参加者が未来を考える中で元気になって、また明日子どもたちや仲間たちと明るく向き合うことに寄与できるコースだと思っています。</p> <p>できるだけみんなでレポートを出し合って、じっくりたっぷりその人のことを話し、意見交換や議論する中で、「気づき」が見られるようになれば、「ニヤリ」と得した時間にしていく、それが獲得目標です。人間が好きになるそんなコースにしたいですね。</p>		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回 9月 13日（日） pm 自己紹介、各職場・実践の状況、私の学びたいこと、 コロナ禍で学んだこと</p> <p>第2回 10月 11日（日） pm 実践報告① 実践報告②</p> <p>第3回 11月 15日（日） pm 実践報告③ 実践報告④</p> <p>第4回 12月 20日（日） pm 実践報告⑤ 実践報告⑥</p> <p>第5回 2月 21日（日） pm 実践をゆたかにするためには、何が必要か</p> <p>※年度途中に、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください</p>		

<p>コース名 福祉政策コース</p>	<p>2020年度回数 5回</p>	<p>担当者 田村和宏</p>
<p>授業の内容</p> <p>相談や教育や保育、高齢者や障害者を支える職場など、私たちの職場は、より困難さを増してきています。</p> <p>障害児者福祉の情勢を眺めてみると、コーディネーターによる相談機能の強化や緊急時の受け入れ対応・強化、体験機能の機能強化などが打ち出されたり、子どものところでは「障害児支援の適切なサービス提供体制の確保と質の向上」が提起され、前進面も多く見受けられていることと並行して、障害児の入所施設の在り方など次の報酬改定をにらみながら議論がはじめられています。一方で、者の場合は、定員20人の「ミニ入所施設（大型グループホーム）」の容認、「自立生活援助」「共生型サービス」が新設されて介護保険との統合がにらまれ、障がいの軽い人たちは、「一人暮らし支援」という選ぶことのできない「安上がり」な生活が強められてきています。</p> <p>就労支援に関しても同じです。「就労継続支援に係る工賃・賃金の向上や就労移行、就労定着の促進に向けた報酬の見直し」され、労働時間が長ければ長いほど単価が高い、また平均工賃が高ければ高いほど、報酬単価が高いしくみが持ち込まれています。また、一般就労に向けて、「就労定着支援」という新しいサービスが加わりました。一億総活躍社会においては、集団での支え合いや協力の中でつけてくる力や働くことにむけて、働きたいと自らが願うための力を育む実践には見向きもしない方向へ突き進んでいます。</p> <p>確かに制度の改善のように映ることもありますが、よくよく考えてみれば、ますます「生活しにくい」「生きる喜びが味わえない」「自己責任や家族責任」に引き込まれていっているということも少なくはありません。こうしたときに、私たち自身も悩む日々になっているわけですが、私たちが情勢負けしない実践をすすめていくために、どういう眼を持つことが大事なのかが問われています。このコースは、これまで発達保障実践論コースの中で講義していた情勢部分について、議論する時間がとれないなどの状況がありましたので、情勢的な重要さもあり、昨年から独立コースにしてみました。福祉政策とはいいいながらも、障害児者の制度の問題点や現場での課題・制度との齟齬などについて基本的な状況報告と議論をしたいと思います。</p> <p>基本、参加者の学習要求にも沿いながら計画を立てていこうと思っていますが、</p> <ul style="list-style-type: none"> 「我が事・丸ごと地域共生社会の実現による障害福祉現場での課題と偏向」 「強度行動障害者の地域での生活に必要な社会資源は何なのか」 「医療的ケアが必要な子どもたちに必要な社会資源を考える」 「障害者施設の高齢化と重度化ーどこで最後を迎えることを望んでいるのか」 「意思決定支援は障害の重い人にも有効か」 「介護保険と障害者総合支援法」 「障害児入所施設の在り方」 「障害児者における社会的養護の現状とこれからの方向性」 「グループホームを考える」 <p>等から議論しながらテーマを絞り込んですすめていきたいと思っています。</p>		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回 9月 5日（土）pm 我が事丸ごと地域共生社会の実現・全世代型社会保障政策</p> <p>第2回 10月 3日（土）pm 地域包括ケアシステムとグループホーム</p> <p>第3回 11月 7日（土）pm 意見表明権と意思決定支援</p> <p>第4回 12月 5日（土）pm 障害児入所施設の在り方・運営指針（案）を考える</p> <p>第5回 2月 20日（土）pm 参加者による報告会</p> <p>※年度途中に、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください。</p>		

<p>コース名 発達基礎理論研究コース</p>	<p>2020 年度回数 10回</p>	<p>担当者 荒木穂積</p>
<p>講義内容・テーマ</p> <p>本コースでは、田中昌人らによって提起されてきた「可逆操作の高次化における『階層－段階』」（『階層－段階』理論と略称する）の学習を、田中昌人らの著作や文献・資料に戻りながらすすめていきます。今年度は、幼児期の階層の3、4歳児（行動から思考へ、遊びの発展、自制心の形成など）の学習をすすめます。必要に応じて幼児期の階層1,2歳児および、5,6歳児も取り上げます。</p> <p>前半では、乳幼児期の発達の基礎的理解をすすめて行きます。今年度は、テキストとして子安増生『心の理論：心を読む心の科学』（岩波科学ライブラリー73）岩波書店、2000年と瀬地山滯子『成長の記録 三才から六才へ：昌和たちの世界』日本放送出版協会、1972年を学習します。併行して「4歳の節」（『障害者問題研究』特集4歳半の節と発達保障、第46巻2号、全障研出版部、2018年）、エリコニン『遊びの心理学』新読書社、2002年、ピアジェ『ピアジェに学ぶ認知発達の科学』北大路書房、2007年などの文献を手がかりに学習をすすめます。</p> <p>後半では田中昌人の「可逆操作の高次化における『階層－段階』理論（『階層－段階』理論と略称）に焦点をあてて学習をすすめてゆきます。テキスト田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断4：幼児期Ⅱ』大月書店、1986年を学習します。併行して田中昌人『人間発達の科学』青木書店、1980年、『人間発達の理論』青木書店、1987年などの文献を手がかりに学習をすすめます。</p> <p>本コースでは、エキストラとして冬期に集中講義を計画します。今年度は、「心の理論」研究の歴史と発展過程を取り上げます。</p> <p>発達入門コース、発達研究の基本コースを修了した人、若手大学院生、発達相談、保育・教育、福祉、医療などの分野で実践している人、『階層－段階』理論の実践と応用に興味をもっている人、『階層－段階』理論を再学習したい人など、発達理論や実践に関心のあるみなさんの参加を期待しています。</p>		
<p>授業の流れ</p> <p>第1回目：オリエンテーションおよび『階層－段階』理論』の概要と幼児期の階層の第2段階である3,4歳ごろの発達特徴（解説）</p> <p>(1) 可逆操作の高次化における『階層－段階』理論がどのような構築されてきたか（テキスト1およびスライド）</p> <p>第2-3回目：『心の理論：心を読む心の科学』（テキスト2）を学ぶ</p> <p>(1) 『心の理論：心を読む心の科学』（その1）（テキスト2：1 心が分かるとは、2 動くものに感ずる心）</p> <p>(2) 『心の理論：心を読む心の科学』（その2）（テキスト2：3 見つめあう心、4 分かちあう心、5 心を読む心）</p> <p>第4-6回目：『成長の記録 三才から六才へ：昌和たちの世界』（テキスト3）を学ぶ</p> <p>(1) 「4才児 自意識の芽生え」（その1）（テキスト3：1 “ウメボシ組になっテン！” 幼稚園・人生はじめての公式場面）</p> <p>(2) 「4才児 自意識の芽生え」（その2）（テキスト3：2 グニヤリ・グニヤグニヤ 4才児とは何か？）</p> <p>(3) 「4才児 自意識の芽生え」（その3）（テキスト3：3 4才児のいす はずかしがる子の心のジャンプ）</p>		

第7-10回目：『子どもの発達と診断4：幼児期Ⅱ』（テキスト4）を学ぶ

- (1) 「3、4歳児の発達的特徴」（テキスト3：1 「ボク」と「ワタシ」、2 活動の発展、3 自制心の形成、(補)3歳以後の段階区分について(1)、p.10-30)
- (2) 「3歳児の精：3歳前半の発達診断」（テキスト3：1 出会いの渦、2 机上での課題、3 躍動の芽生え、4 社会性と自我、3歳児のおかあさん、p.31-124)
- (3) 「自制心の形成：3歳後半から4歳後半の発達診断」（テキスト3：1 「くせ」、2 2次元可逆操作の獲得、3 机上での課題の変化、4 社会性と自制心、3歳から5歳未満の幼児の総合的検討、p.125-216)
- (4) 「すこやかな発達のために」（テキスト3：1 育児で大切なこと、2,3歳児、4歳児健診を実施されるかたへ、3 障害への対応と予後の指導、p.213-248)
幼児期の発達の階層（次元可逆操作期の階層）幼児期Ⅱ－3歳・4歳児ごろの振り返り

テキスト

- (1) 子安増生『心の理論：心を読む心の科学』（岩波科学ライブラリー73）岩波書店、2000年
- (2) 瀬地山濤子『成長の記録 三才から六才へ：昌和たちの世界』日本放送出版協会、1972年
- (3) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断4：幼児期Ⅱ』大月書店、1984年

参考書・ビデオなど

- (1) 田中昌人『人間発達の科学』青木書店、1980年
- (2) 田中昌人『人間発達の理論』青木書店、1987年
- (3) 田中昌人・田中杉恵『発達診断の実際』（1～8巻）DVD版、大月書店、2009年
- (4) 田中昌人・田中杉恵『あそびの中にみる子どもたち』（1～6巻）DVD版、大月書店、2009年
- (5) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断3：幼児期Ⅰ』大月書店、1984年
- (6) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断5：幼児期Ⅲ』大月書店、1988年
- (7) 京都大学教育学部第二期生有志『あの頃の大学生たち—戦後激動の「改革期」を生きる—』クリエイツかもがわ、2005年
- (8) 京都大学教育学部第二期生有志『あの頃の若き旅立ち-教育・研究・生活-』クリエイツかもがわ、2006年
- (9) 先生を偲ぶ教え子のつどい実行委員会『土割の刻—田中昌人の研究を引き継ぐ—』クリエイツかもがわ、2007年
- (10) 田中昌人『発達研究への志』あいゆうびい、1996年
- (11) 田中昌人『発達の土割』あいゆうびい、2001年
- (12) 中村隆一・渡部昭男(編著)『人間発達研究の創出と展開-田中昌人・田中杉恵の仕事をとおして歴史をつなぐ-』群青社、2015年
- (13) 『障害者問題研究』特集 4歳半の節と発達保障、第46巻2号、全障研出版部、2018年
- (14) デ・ペ・エリコニン、天野幸子(訳)『遊びの心理学』新読書社、2002年
- (15) デ・ペ・エリコニン、駒林邦男(訳)『ソビエト・児童心理学-幼年期教育の基礎—』明治図書出版、1964年
- (16) レフ・セミヨーノヴィチ・ヴィゴツキー、神谷栄司(訳)『ごっこ遊びの世界—虚構場面の創造と乳幼児の発達—』法政出版、1989年。
- (17) ピアジェ,J. 中垣啓(訳)『ピアジェに学ぶ認知発達の科学』北大路書房、2007年。
- (18) ピアジェ,J. イネルデ,B,波多野完治(訳)『新しい児童心理学』（文庫クセジュ461）白水社、1969年。

(19)子安増生『「心の理論」から学ぶ発達的基础—教育・保育・自閉症理解への道—』

ミネルヴァ書房、2016年

(20)子安増生・郷式徹『心の理論—第2世代の研究へ—』新曜社、2016年

その他

本コースは、レジュメによる発表など参加型学習形式でおこないます。DVDや映画など視聴覚教材を用いた学習も取り入れていきます。ゼミナールの中で関連文献や資料を紹介・配布する予定です。

コース名 発達研究の基本コース	2020年度回数 1回	担当者 木下孝司
授業の内容 発達診断と、保育・教育の専門性に基づいた子ども理解には、方法論の相違もありますが、子どもの内面世界を読み解き、その願いや悩みを再発見するという目標は共有されるものです。発達診断に実践的な視点を導入して、子ども理解を深めていくのに必要な発達研究の方法を確認して、受講者の皆さんが発達診断において工夫されていることを交流します。		
授業の流れ 9月27日（日） 1) 講義 心理学的子ども理解と実践的子ども理解の対話（仮）13時～14時10分 心理学的子ども理解において、実践的な視点から条件変化を入れたりする必要性を述べます。 （休憩30分） 2) ゼミ 発達診断における私の試み（仮）14時40分～16時 発達診断において、それぞれの方が実践されている発達検査の工夫や観察のポイントを事前に簡単なレポートにしてもらい、それを報告して、発達研究の方法論からコメントします。		

コース名 発達診断方法論～臨床篇～コース	2020 年度回数 5回	担当者 松島明日香
<p>授業の概要</p> <p>発達診断方法論～臨床篇～コースは、実際に発達相談や教育相談に従事しようとする（あるいは、現にしている）人たちを対象にしています。受講にあたって、発達研究の基礎コースを受講しておられると理解がより深められると思います。</p> <p>本コースでは子ども一人ひとりの発達状態を理解するための発達診断の方法論について、事例を通して学んでいきます。子どもの発達は多様で、変化に富んでいます。それは魅力的である反面、発達理解において難しさを伴います。昨今、主流になりつつある子どもの能力を「できる・できない」でとらえる単純化した評価方法や発達を数値化して標準値からの差によって評価する手法は簡便で分かりやすいという側面がある一方で、子どもの能力を機械的にとらえてしまうことで、本来、子どもがもっている発達の多様性や動態を把握できないという問題を抱えています。このことは、発達診断の最大の目的である「発達保障に根差した保育・教育実践への寄与」から、かけ離れたところで子どもの発達や育ちが論じられてしまうという危険性をはらんでいるといえるでしょう。</p> <p>本コースでは、発達検査場面で見せる子どもの反応から、「できた」「できない」ということが発達の的に何を意味するのか、さらには子どもの“できかた”や“取り組みかた”をどのような視点でとらえることが大切かを学ぶことで、理論的根拠をもって発達診断や発達の子ども理解ができるようになることを目指します。</p> <p>授業は基本的に受講者の皆さんが発達診断において悩んでいる事例などを持ち寄りながら検討していく形式で進めていく予定です。主として発達の階層－段階理論に依拠しつつ、下記の視点から各発達段階の特徴や発達診断のポイントをおさえていきたいと考えています。</p>		
<p>授業の流れの一例（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回：発達診断の概要 発達診断の歴史 発達検査、知能検査の意味と限界 発達の階層-段階理論と発達診断</p> <p>第2回：1次元可逆操作期（1歳半頃）の発達と発達診断</p> <p>第3回：2次元形成期（2、3歳頃）の発達と発達診断</p> <p>第4回：2次元可逆操作期（4歳頃）の発達と発達診断</p> <p>第5回：3次元形成期（5、6歳頃）の発達と発達診断</p>		
<p><参考図書></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 白石正久・白石恵理子『教育と保育のための発達診断』全障研出版部 ▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断3 幼児期Ⅰ』大月書店 ▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断4 幼児期Ⅱ』大月書店 ▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断5 幼児期Ⅲ』大月書店 ▪ 荒木穂積・松島明日香・中村隆一・竹内謙彰・富井奈菜実「新しい発達診断法開発プロジェクト報告資料集 幼児期における発達の基本構造の検出と発達診断上の留意点」 		

コース名 研究科	2020年10月～ 2022年10月	担当者 渡部昭男・田村和宏
授業の流れ（スケジュール・内容等の計画） <p>発達保障学校のコースを1コース以上受講した方が対象です。研究論文を書き上げ、『人間発達研究所紀要』に投稿することをめざします。メールと面談（スクーリング、2年で6回程度）で研究の計画策定と推進を支援します。</p> <p>2年の流れは、以下の通りです。</p> <p>開校式 指導教員（正・副）の委嘱、2年間のスケジュールの内定</p> <p>計画発表会（6か月目）</p> <p>中間発表会（12か月目）</p> <p>予備論文発表会（18か月目）</p> <p>査読者とのやり取りと完成論文の提出（22か月目）</p> <p>査読・修了（24か月目）となります。</p> <p>指導教員はできるだけご希望に添いたいと思いますが、諸般の事情により、こちらで決定させていただくこともあります。研究科の申し込み締め切りは9月末です。</p>		

人間発達研究所

〒520-0052 大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階

Tel/Fax 077-524-9387

Email j-ih63su@j-ihd.com

URL <http://www.j-ihd.com/>
